沖縄国際大学図書館における レポートライティングサポートの現状と課題

司書課程教員の立場から、文献検索支援に注目して

山　口　真　也

1.　はじめに

筆者は、勤務する沖縄国際大学図書館が実施している「レポートライティングサポート」に、司書課程専任教員という立場から関わりを持たせてもらっている。

沖縄国際大学の「レポートライティングサポート」は、「学習支援プログラム」の１つとして 2013 年度後期から実施されている取り組みであり、2016 年度で４年目を迎える。この支援事業は２部に分かれており、レポートの書き方を大学院生が教える「レポート作成支援」と、レポートを書くための文献収集を補助する「文献検索（支援）」によって構成されている。１年を通して常時行われているわけではなく、レポート作成時期に合わせて、前期は７月中旬から８月上旬、後期は１月中旬から２月上旬というスケジュールで実施されている。

筆者が司書課程専任教員として関わりを持たせてもらっているパートは、「文献検索（支援）」であり、具体的には、①支援者の推薦（司書課程受講中の４年生２名[1]）、②支援者への事前のレクチャー（支援者用マニュアルの作成）、③支援後の情報共有（反省会の実施）、といった関わりを持っている。

本支援事業については、開始後１年間の取り組みを本誌第 17 号にて紹介したが[2]、その後も継続的に支援事業に関わりを持ち続けており、2016 年度前期のサポートを終えた後には、受講者へのアンケート調査も企画・実施している。本稿では、これまでの沖縄国際大学図書館でのレポートライティングサポート（文献検索）事業の活動を振り返りつつ、アンケート結果からみえてくる今後の支援事業の課題を考察してみたい。

★開講スケジュール★

日程	時間	コース	定員	申込締切
7月19日（火）	17：00～19：00	文献検索	4名	7/14（木）
7月20日（水）	18：00～20：00	レポート作成指導	4名	7/15（金）
7月21日（木）	17：00～19：00	文献検索	4名	7/16（土）
7月22日（金）	18：00～20：00	レポート作成指導	4名	7/17（日）
7月25日（月）	18：00～20：00	文献検索	4名	7/20（水）
	18：00～20：00	レポート作成指導	4名	
7月26日（火）	18：00～20：00	文献検索	4名	7/21（木）
	18：00～20：00	レポート作成指導	4名	
7月27日（水）	18：00～20：00	文献検索	4名	7/22（金）
	18：00～20：00	レポート作成指導	4名	
7月28日（木）	18：00～20：00	文献検索	4名	7/23（土）
	18：00～20：00	レポート作成指導	4名	
7月29日（金）	18：00～20：00	文献検索	4名	7/24（日）
	18：00～20：00	レポート作成指導	2名	
8月1日（月）	17：00～19：00	文献検索	4名	7/27（水）
8月2日（火）	18：00～20：00	レポート作成指導	4名	7/28（木）
8月3日（水）	17：00～19：00	文献検索	4名	7/29（金）
8月4日（木）	18：00～20：00	レポート作成指導	4名	7/30（土）

※開講日によって時間帯が異なります。ご注意ください。

【図１　レポートライティングサポートの内容・日程（2016 年度前期）】

2.　2016 年度前期の文献検索支援の概要

図１の通り、2016 年度前期のレポートライティングサポート（文献検索）は７月中旬から８月上旬にかけて実施されている。ただし、募集日程では、学生の授業やアルバイトとの重なりがあり、指定された時間に参加できないこともあるため、受講者の都合に支援者２名[3]が合わせる形で柔軟に日程を組んで対応している。

[1] 文献検索のスキルを学ぶ司書資格科目「情報サービス論Ⅰ・Ⅱ」の受講を終えた学生から推薦している。

[2] 山口真也・糸数日菜子「沖縄国際大学図書館でのレポートライティング支援事業の課題」『沖縄県図書館協会誌』第 18 号 , 2014.12, pp.70-76

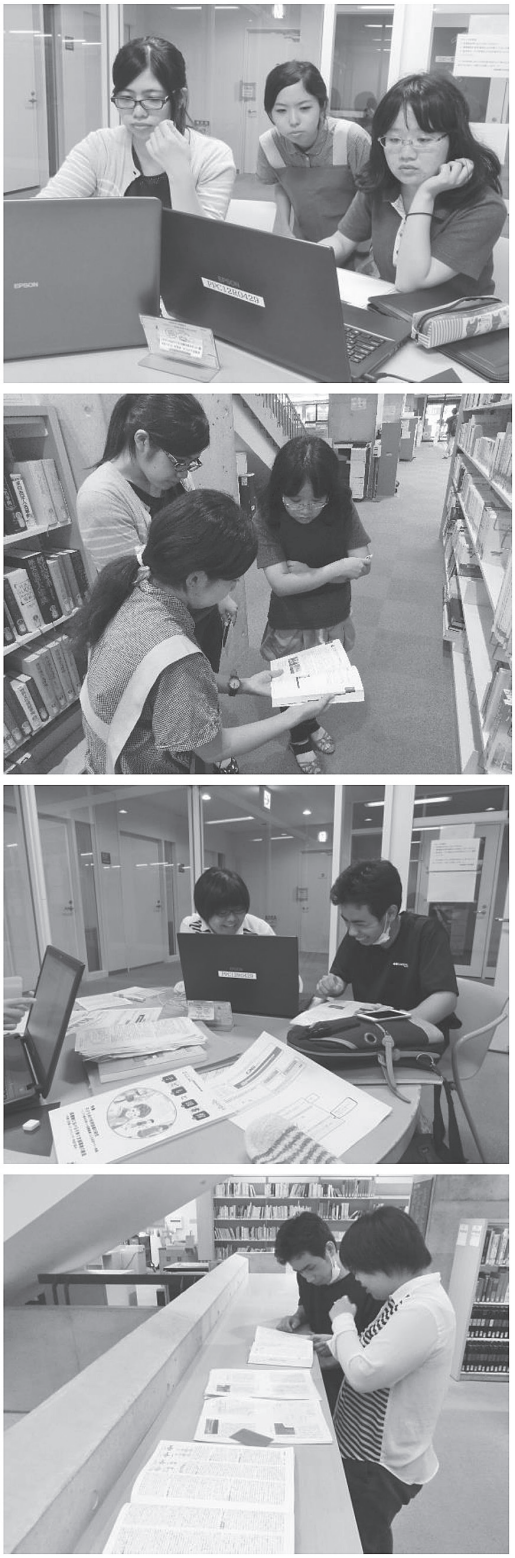
[3] 2016 年度前期は、総合文化学部日本文化学科４年生・瑞慶覽千咲さん、瀬良垣杏さんが支援を担当している。

今回の支援は7月21日水曜日からスタートし、8月3日まで、合計7回実施し、1回あたりのサポートの時間は2時間、最大4名を1～2名の支援者で対応する、という形をとることとした。受講者の人数は23名であり、うち1名は期間内に2回受講している。本学の全学部学生（約5,500名）に占める割合は依然として小さいものの、支援をスタートした2013年度後期は16人、2014年度前期が8人しか受講していなかったことを考えると、着実に受講者は増えてきている。

サポートを行う場所は、本学図書館2Fにあるグループ学習室の一室とし、図書館で借りることができるノートPC（無線LANに繋がっている）を受講者分の台数を準備、実際に受講者に各種データベースを検索してもらうようにした。

文献検索のサポートは次のような手順で進めるように、あらかじめ支援者2名に伝えている。

まず、①授業名、レポートのテーマ、題材などを確認し、辞書事典のまとめでよいのか、専門書や雑誌論文を読むことが求められているのか、新聞記事、雑誌記事など最新の事例や統計的な情報を抑える必要があるのか、といった、必要な文献の種類･範囲を判断する。その上で、②本学図書館のOPAC、近隣図書館のOPAC、雑誌論文、雑誌記事、新聞記事の各種データベースの検索方法やキーワードの指定方法をレクチャーする。最後に、③必要な文献がデータベース等から見つかったら、実際にその資料が所蔵されている場所まで案内、④それらのコピーをすませてから、⑤引用文献や参考文献として記載する上での出典の書き方を説明する。



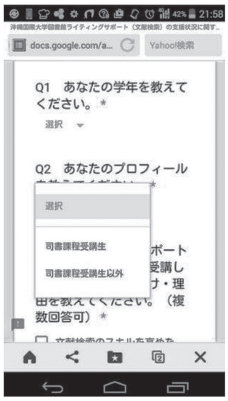
【図2　文献検索サポートの様子】

なお、今回の支援者２名はいずれも図書館情報学ゼミに所属し、卒業論文も図書館をテーマとしているため、受講者のレポートのテーマが図書館学に関わるものであった場合には、研究経験を活かして、各種データベースではヒットしない全国学会の報告書や地域資料も紹介するように指示することにした。

3.　文献検索支援を受けての感想
―受講者へのアンケート調査より

序論で述べたように、文献検索サポートに対して受講者がどのように感じたのか、を確認し、今後のサービスの向上につなげるべく、図書館担当者の了解の下で、アンケート調査を実施することとした。調査期間は 2016 年９月８日～10 月７日までの１ヶ月間とし、受講者名簿を図書館より借り受け、筆者から直接、メールで連絡して協力を依頼した。

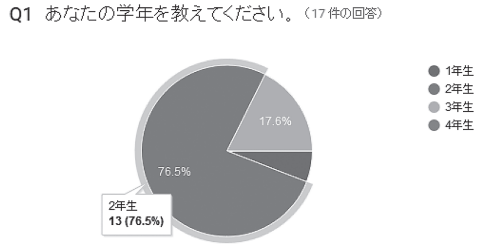
アンケートは Google のフォーム機能（https://docs.google.com/forms/u/0/）を用いて作成し、スマートフォンでも簡単に回答できるネットアンケート形式とした（右図）。調査期間中に、23 名中 17 名が回答を寄せており、回答率は 73.9％であった。以下、アンケート調査結果を簡単に報告したい。

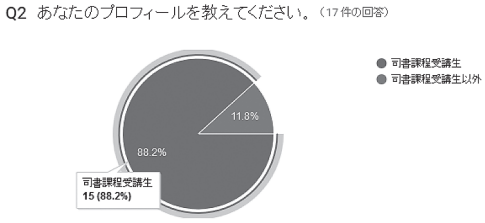


【図３　スマホでのアンケート画面】

3.1.　回答者のプロフィール（学年ほか）

アンケートの Q1 では学年を、Q2 では司書課程の受講状況を確認している。次のグラフから分かるように、受講者は２年生が圧倒的に多く（76.5％）、３年生は３名（17.6％）、１年生は１名（5.9％）という結果であった。司書課程の受講者の人数は 15 人（88.2%）と受講者の大半を占め、一般学生はわずか２名（11.8%）という結果となった。





司書課程の２年生が多く受講している理由としては、筆者が担当している司書課程の授業「図書館サービス概論」という科目で、図書館機能を活用したレポート作成を学期末の課題として設定し、さらに、ライティングサポートを体験してみることも司書課程の勉強であるという説明を授業の中で取り入れているためだと思われる。

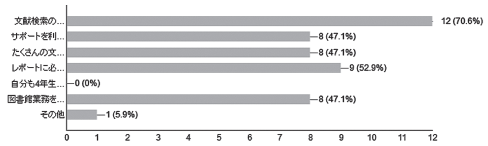
もちろん文献検索サポートも含め、レポートライティングサポートは、全学学生、全教員に向けて広報されている。上述のように徐々に受講者数が増加している兆しは見てとれるものの、まだまだ認知度は低く、現状としては、「司書課程受講生による、司書課程受講生のためのサポート」となってしまっている面もある。このままでは「学習支援」という目的は十分に果たされておらず、受講者層の拡大が急務と言えるだろう。

3.2.　受講しようと思ったきっかけ・理由

アンケートでは Q3 として、文献検索サポートを受講しようと思ったきっかけ・理由を確認している。その結果をまとめたものが次のグラフであるが（複数回答可）、最も多かった回答が「文献検索のスキルを高めたかったため」であり、12 名（70.6％）が選択している。また「図書館業務を学ぶ機会になるため」という回答も８名（47.1%）から寄

せられており、ここでも司書課程の学生らしい理由が見受けられる結果となっている。

Q3 ライティングサポート（文献検索支援）を受講しようと思ったきっかけ・理由を教えてください。（複数回答可）
（17 件の回答）



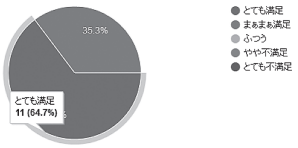
上述の通り、筆者が担当する授業「図書館サービス概論」では、本サポートの受講を推奨しているのだが、他に、図書館サービスを学ぶ科目であるだけに、貸出、閲覧、コピーなどの一般的なサービス以外にも、レファレンスや相互貸借、購入希望など、できるだけたくさんのサービス受けた上でまとめたレポートを高く評価するとも伝えている。つまり、本サポートを受講すると、その分、レポートの評価が高まるということである。サポート受講者の 9 割が司書課程受講生であったことを考えるならば、「サポートを利用することにより成績が加点されるため」を選択した学生が 8 名（47.2%）と、母数に対してそれほど多いわけではない、ということは意外な結果であった。学生たちは、成績に関わらず、自身のスキルを高め、よりよいレポートに仕上げるべく、本サポートを純粋な気持ちで受講しているということだろうか。

3.3.　文献検索サポートの満足度

アンケート Q4 では、文献検索サポートを受けての満足度を確認している。支援者 2 名初めての取り組みであったが、グラフに示した通り、「とても満足」が 11 人（64.7%）、「まぁまぁ満足」が 6 人 35.3%、という結果になっている。おおむね高評価を得ており、学習支援事業として優れたパフォーマンスであったことが分かるだろう。

ただし、この結果については、受講者の多くが司書課程の受講生であったことを考慮する必要があるようにも思われる。つまり、レ

Q4 今回のライティングサポート（文献検索支援）に対する満足度を教えてください。
（17 件の回答）



ポート課題が図書館学に関わるものが多く、支援者が対応しやすかった、ということも影響していると考えられるのである。もし多様なニーズを持つ学生が、多様なレポートテーマで支援を求めた場合、プロの司書ではない司書課程の受講生はどこまで対応できるのだろうか。また、毎年入れ替わる（＝経験が蓄積されない）アルバイトの支援者がそれらの複雑性の高い検索ニーズに対応できるようにするためには質の高い「マニュアル」を作る必要もある。が、その「マニュアル」もまた現段階ではまだまだ不十分であるという課題が残されている。そもそもレファレンスサービスに通じる基幹的サービスを、学生スタッフが対応しているという点に、本事業の根本的な困難さがあるようにも思われる。

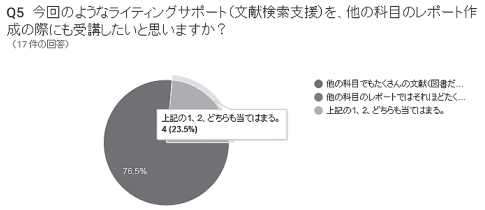
3.4.　文献検索サポートの必要性

Q5 は、やや誤解を招く発言になるかもしれないが、文献検索サポートが現在の本学の教育の中でどの程度必要とされているのか、を確認するために設定した質問である。

近年、ライティングサポートが多くの大学図書館において導入されるようになっており、本学図書館もまたそれに倣う形で導入を決めた経緯があるのだが、そもそも、学内の多数の科目において、今回の文献検索サポートにおいて支援者が受講者にレクチャーしているような、図書、雑誌論文、雑誌記事、新聞記事、地域資料など、多様な図書館資料を活用したレポートの作成が求められていなければ、こうしたサポートに対するニーズは当然小さくなるはずである。

筆者が担当する授業では、司書課程の学生にはできるだけ図書館を日々活用してほしい

という願いがあるため、多様な図書館資料を収集しなければレポートが書けないような課題を課しているのだが、他の授業でもそうしたねらいは必ずしも定められているわけではないだろう。決してそのことを批判するわけではないのだが、図書館で図書を１冊借りてレポートを書いただけでも十分通用する授業もあるだろうし、もっと言えば、図書館に行かなくても､指定されたテキストを読んだり、インターネット上の記事をまとめていくだけでも十分な評価を得られる授業もあるように思われる。



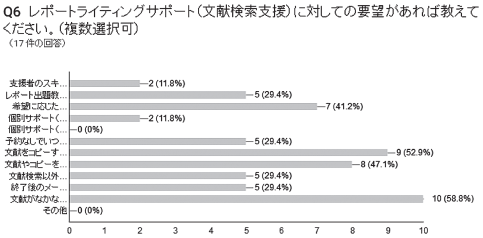
上のグラフに示した通り、今回のサポートを受けて学んだことを他の科目のレポート作成に生かしたいと思うか、という設問に対して、13 名（76.5％）が「①他の科目でもたくさんの文献（図書だけでなく、雑誌、新聞記事なども含めて）を集めた方が良いレポートが書けるので､他の教科でもぜひ利用したい」を選択している。

一方､「②他の科目のレポートではそれほどたくさん文献を集めなくてよいので、利用する必要性は強く感じない」を選択した回答者はおらず､「上記の①②、のどちらも当てはまる」が４名（23.5％）から寄せられるという結果となった。この４名という数字をどのように評価するかは難しいところだが、ひとまず、上記の筆者の懸念は杞憂ということになるだろうか。

3.5.　文献検索サポートへの要望

上述のように、学生たちが日々受講している授業の中では、多様な文献をもとにしたレポート作成が全く求められていないというわけではないようである。にもかかわらず、サポートの受講者が司書課程受講生以外に広がっていかない理由はどこにあるのだろうか。

アンケートの Q6 では、文献検索サポートに対しての要望を確認している。最も多かった要望は「文献がなかなか見つからないときの「レファレンスサービス」への引継ぎ（司書への引継ぎ)」であり、10 人（58.8％）がこの項目を選んでいる。3.3. の設問では満足度は高いように思われたが、やはり司書課程受講生のスキルだけでは十分に対応し切れていないニーズもあり、そうした場合には、カウンターにいる司書に引き継いでほしいという気持ちを受講者たちは持っているのだろう。



他には､「文献をコピーする際のコピー代の補助（無料化)」(9 人、52.9％)､「文献やコピーを他の図書館から取り寄せる際の送料等の補助（無料化)」(8 人、47.1％）と続いている。沖縄の学生の経済事情を考慮し、コピーや文献複写物の無料化を求める声にもこたえることも、学習支援の１つと捉えてもよいのではないだろうか。

４人セットという受講体制については、1 対１でのきめ細やかな対応を求めているのでは、と個人的に懸念していたのだが、そのことへの不満は２名（11.8％）からしか寄せられていない。司書課程の受講生は女性学生が多いため、支援者はどうしても女性となることが多く、そうした場合に（顔見知りではない、同世代の)「男女１対１」になることの方がむしろ気づまり、ということもあるのだろう。

「希望に応じた個別の時間設定（夕方はアルバイトがあって避けてほしい等)」については、

7人（41.2％）の受講者が要望を寄せている。学生の多くが夕方にアルバイトを入れていることを考えると、意外に少ない値に思えるであるが、これは、2.で挙げたように、回答者たちがすでに日程調整をした上で受講しているということが結果に影響していると考えてよいだろう。逆に言えば、図1の告知ポスターに書かれた時間帯ではアルバイト等の都合で受講できないと感じてしまった学生は、申込すらしなかった可能性があるということでもある。支援者は4年生であり、時間割の融通はかなり利くのだから、時間設定をもう少し学生に合ったものにするか、時間調整が可能であることをポスターに大きく記すことで、一般学生の利用を拡大してくことができるようにも思われる。このほかにも、「予約なしでもいつでも相談できる態勢」「終了後のメール、SNS等での個別フォロー（質問の随時受付）」などについても要望が寄せられており、今後の支援体制の拡充の材料として、図書館側に提案していきたいと考えている。

4. おわりに

以上、本稿では、沖縄国際大学図書館で実施されているレポートライティングサポートの現状と課題について、司書課程専任教員の立場から述べさせていただいた。

最後に支援者である瑞慶覽さん、瀬良垣さんから連名で寄せられた感想を掲載して本稿のまとめとしたい。

「文献検索サポートを終えて」

2016年7月から約1か月間、沖縄国際大学図書館の学習支援事業の文献検索サポートを担当した。私たちが支援者を志望した理由は、①サポートの経験を積み、司書としてのスキルを高めることが様々な利用者対応に活かせると考えたこと、そして、②図書館学の授業やゼミで学んだことがどのくらい実践で役立つか、現場に出る前に試してみたかった、ということの2点である。

まず要望を挙げると、支援者1人が受講者2人を担当する場合、手がかかる方に1人で付きっきりになることもあり、あと1人の受講者が手持ち無沙汰になってしまう場面が何度かあった。予算の都合もあると思うが、もし可能であれば、ライティングサポートの実施期間を長くして、受講者を分散して欲しい。同じ授業を受けている受講者であれば1人につき2名態勢でもなんとか対応できるが、別々の授業の（別々のテーマの）受講者を2名相手にするのは特に難しかった。もちろん、1対1になる気づまり感はあるかもしれないが、別の授業の学生なら、やはり1人ずつに設定してほしい。

サポートを行う中で難しさを感じた点としては、テーマが決まっていない、または漠然とした考えだけで受講されてしまうと、テーマの相談だけで時間が過ぎてしまい、文献検索までいかない、もしくは文献検索にあまり時間が取れなくなってしまうということだ。受講していない科目のレポートのテーマの相談はかなり難しいので、事前に担当教員に相談して、テーマは固めてきてほしい。事前の申し込みの際に、テーマを書いてもらうという方法もあると思う。

また、口数が少なかったり、コミュニケーションが上手く取れない受講者もいて、対処に困ることが何度かあった。ただしこれは受講者が悪いということではなく、支援者に求められるものは情報検索のスキルだけではなく、コミュニケーション能力も重要だということだと考えている。自身の能力を向上させて、次回につなげていきたい。

今回のサポートを通して、自分自身の文献検索の能力と知識も深まったように感じている。反省点もいくつかあるが、たくさんの学びもあった。後期にまた支援者として本事業に関わる機会があればぜひチャレンジしたい。（2016年11月10日）

やまぐち　しんや：沖縄国際大学